

白石を踏み進みゆく我が前に

光に映えて新宮は立つ

(今上陛下 御製)

本年も霜月を迎え、一年を振り返る時期となってきた。この平成二十五年という年は様々な点から日本の歴史に残る年となったことは間違いないだろう。各地で観測記録史上過去最高気温を更新した猛暑。そうかと思えば、記録的な降水量を記録し、各地で土砂崩れの被害が続出した。直近では「十年に一度」と言われる猛烈な台風によって伊豆大島が甚大な被害を受けることとなってしまった。今年も癸巳五黄土星の年であった。癸巳「水」を巳は「火」を五黄土星は文字通り「土」を意味するのであるが、振り返ってみると本当に「水」「火」「土」の気の強い年であったように感じる。この癸巳を易に当てはめてみると「水」と「火」で「水火既濟」という卦になる。「既濟」とは「調っている」という意味があり、次のスタートに向かう時でもある。さらに五黄土星の年には九つ全ての星が正しい位に位置しており、九星学上でも「調っている」と言える。このことから今年はリスタートへの準備の年であり、平成二十六年は新たな一步を踏み出す年ということが出来る。さて、そんな次へと向かう年に、伊勢神宮の式年遷宮、そして出雲大社の平成の大遷宮という、日本にとつて歴史的な神事が行われたことは果たして偶然なのであろうか。そもそも伊勢神宮とは、言わずと知れた日本人の総氏神であり、皇祖神である「天照大御神」を御祀りする皇大神宮(内宮)と「豊受大御神」を御祀りする豊受神宮(外宮)、そして別宮など一二五社の神社の総称である。この伊勢神宮の式年遷宮は天武天皇の宣旨が起源と言われ、持統天皇の時に第一回の御遷宮が行われた。今から約一二三〇〇年前のことである。

一方出雲大社は、当教会でも御祀りしている「大国主命」が主祭神である。出雲大社の歴史も古く、高天原からの天孫降臨に際し、大国主命が条件として出雲に天高くそびえる社を建て、そこに御祀りすることを建御雷神に提示した。この条件が認められ、建てられたのが出雲大社と言われている。「天高くそびえる社」というのはこれまで伝説だと思われてきたが、遷宮に際して行われた発掘調査によって、直径1mを超える巨木を二本まとめた柱痕が発掘された。これによって、「天高くそびえる社」というのが実在した可能性があるとされるようになってきている。出雲大社の遷宮も今から約一二〇〇年ほど前から始まっている。

伊勢神宮は二十年ぶり、出雲大社は六十年ぶりの御遷宮であり、この二つの神社の遷宮が重なったことの意味は大きい。なぜならばこの二つの神社が日本の「陽」と「陰」を司っているからだ。先述のように伊勢神宮(皇大神宮)は天照大御神をお祀りしている。高天原を治める神様であり、「天の岩屋」の逸話でも分かるように天照大御神は太陽を司る神様であった。太陽は「生」の象徴であり、「この世」を意味する。これを陰陽思想に当てはめると「陽」となる。これに対し大国主命は地上を治めていた神様であ

る。また、別名を幽冥主宰大神(かくりごとしろしめすおおかみ)といい、幽世(かくりよ)、つまり、「あの世」「人々の靈魂が帰る世界」を治める神様でもある。これらを陰陽思想から考えると「陰」となる。このことから伊勢神宮と出雲大社を「陽」と「陰」を司る神社ということが出来るのである。この二つの神社の御遷宮が同じ年に行われた。御遷宮を行うことで御神威は高まると考えられている。天と地、この世とあの世を治める神様の御神威がともに高まる。言うなれば日本の全てが一新され、より高みに進んだということなのである。

伊勢神宮の御遷宮については次のような逸話が有名である。それは「米座(こめざ・こめくら)」と「金座(かねざ・かねくら)」の話である。内宮の御正宮御敷地(こしやうぐうみしきち)は東と西を二十年ごとに入れ替えているのだが、東の御敷地は「米座」、西の御敷地は「金座」と呼ばれている。そしてこの「米座」と「金座」が世界情勢とリンクしているというのだ。東の「米座」に神様がおられるときは、平和で心豊かな「精神の時代」、西の「金座」におられるときは波乱、激動、物欲の強い「経済の時代」になると伊勢では昔から言い伝えられてきたそうだ。幕末のころからその歴史を見ていくと、「金座」に遷った時には黒船来航に始まり、日清・日露戦争、第二次世界大戦、石油ショック、中東湾岸戦争、バブル景気などが起こり、まさに波乱、動乱の「経済の時代」であった。

一方「米座」に遷った時はどうか。一八七二年の東京遷都に始まり、近代化による文明開化、大正ロマンを謳歌する時代と文化隆盛の時代が続いた。そして戦後になると高度経済成長期を迎え、戦後の復興を成し遂げる。しかし、平成五年に「米座」に遷ると、バブル景気の崩壊にともなう「失われた二〇年」となり、現在に至っている。

果たしてこの度の「金座」への御遷宮によってどのような時代を迎えることとなるのだろうか。昨年末に就任した安倍首相は「フレ脱却」とともに、「戦後レジームからの脱却」も主張している。六〇年ぶりの出雲大社の大遷宮が、およそ六〇年前に構築された戦後の体制を大きく変える節目となるのかもしれない。今日日本は新たなスタート地点に立っている。新たな秩序を形成し、動乱の時代でもブレない強い日本となることを願っている。

行事予定

◎十二月一日(日) 正午より 月例祭

◎十二月二十三日(月) (天皇誕生日) 正午より 星祭

◎平成二十六年一月三日(金) 正午より 初焚上祭

*星祭の申し込みを受け付けております。

「星祭」とは、九星学上の一人一人の生まれ星について一年の無事を感謝し、そして来年もまた平安に過すことができるよう祈願するものです。申込用紙にご記入の上、お申し込み下さい。

*歳末恒例の大鏡餅奉納を受け付けております。一口二千円ですので、何卒よろしく願いたします。なお、この鏡餅は節分祭の折に、つき直してお配りいたします。